

令和元年度 授業改善全体計画

64 練馬区立富士見台小学校

各教科等の指導の重点

＜国語＞理解したり表現したりするために必要な語句を身に付け、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにする指導の充実を図る。伝統的な言語文化や古典を取り上げ親しむようにし、継承して新たな創造へとつなげるようにする。

＜社会＞課題を追求したり、解決したりする活動を通して、グローバルな視点から自分たちが住んでいる地域や国について興味をもたせる。資料を基に調べたことをまとめ、分かったこと、考えたことを表現できるようにする。

＜算数＞児童の実態に合わせた習熟度別指導を有効に活用し、児童が数学的な見方・考え方を働かせることができる授業展開をすることで、数学的に考える資質・能力を伸ばす。

＜理科＞自然に親しみ、見通しをもって観察実験などを行うことで問題解決の能力と自然を愛する心情を育て、自然の事物・現象についての実感を持った理解を図り、科学的な見方や考え方を育てる。

＜生活＞具体的な活動や体験を通して、「身近な生活に関わる見方・考え方」を生かし、自立し生活を豊かにしていくための資質・能力を育成する。

＜音楽＞音楽的で豊かな感受や表現の基礎的な能力を育て、その定着と個に応じた指導の充実を図る。

＜図画工作＞感性を働かせ、造形的な創作活動の基礎を培い豊かな情操を養う。

＜家庭＞日常生活に必要な基礎的な理解を図り、技能を身に付け、生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決する力、生活を工夫し創造しようとする態度を育てる。

＜体育＞課題をもって、各種の運動の特性に応じた知識・技能を身に付け、運動の楽しさや喜びを味わうことができるよう指導の充実を図る。

＜外国語活動＞ゲームなどを取り入れ、楽しく外国語に親しみ、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する。

＜総合的な学習の時間＞

体験：体験学習にすすんで参加させ、学習や生活に生かさせる。

解決：学習計画を立て、見通しをもって調べさせる。

発信：効果的にまとめ、表現し伝えさせる。

追究：活動を通し高まった関心をさらに探究させる。

＜特別の教科道徳＞教育活動全体を通じた豊かな関わり合いの中で、自他を思いやる豊かな心や、生命を大切にすることを育てる。また、体験活動やボランティア活動などを通して、学んだ道徳的諸価値を道徳の時間を通して、補ったり、深めたり、統合させたりすることで豊かな道徳性を養う。

＜学校教育目標＞

日本の国民としての自覚をもち、心身ともに健康で人権尊重の精神と創造性に満ちた子供の育成を目指していく。

○かしこい子 ○やさしい子 ○たくましい子



学校経営方針（学力に関して）

「子供が、豊かな心をもち自己実現を図れる学校」

【学習指導目標】

全ての学習にわたって「子供が好奇心をもち、知る喜び、学ぶ意欲をもてること」を学習指導の目標にして、基礎・基本の確実な定着を図る。

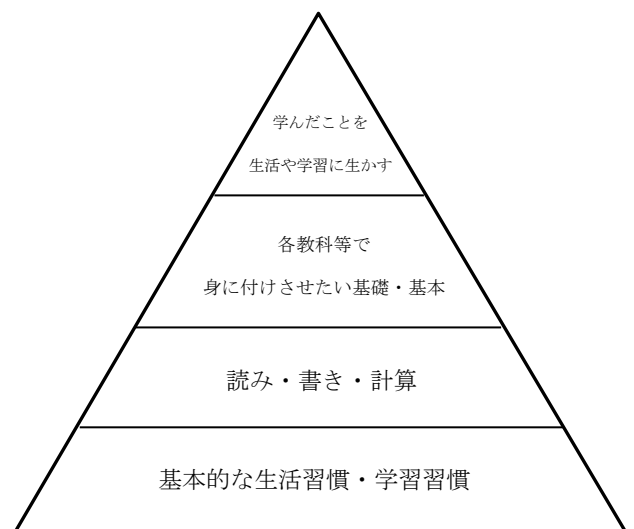
【学習指導の方針】

体験的な学習、問題解決的な学習を重視し、考える力、表現する力の育成のため、児童の立場に立った学習指導を創意工夫する。



○各教科の指導計画と評価規準に基づいた評価計画の実施により、一人一人に基礎的・基本的な知識・技能を定着させ、確かな学力の向上を図る。

○担任と加配教員による習熟度別指導、学力向上支援講師によるTT指導を進め、一人一人の児童の個性と能力に応じた指導の充実を図る。



＜関係法令等＞

- ・日本国憲法
- ・教育基本法
- ・学習指導要領 等

＜願い＞

- ・児童の実態や伸びたいという願い
- ・保護者の伸ばしたいという願い
- ・地域社会の支えたいという願い
- ・PTA、学校評議委員会からの意見等

生活指導の重点

- ・児童一人一人の理解に努め、集団で望ましい生活習慣を養い、自主的で活力のある元気な子供を育てる。
- ・富士見台小学校のきまりの徹底を図り基本的な行動様式を身に付け、自らすすんで実行する子供を育てる。

特別活動の重点

- ・児童一人一人の創意を大切に、多様な他者と協働する様々な集団活動の充実を図る。
- ・集団の一員としての役割を自覚し、協力してよりよい生活を築こうとする実践的な態度を育てる。

キャリア教育の重点

- ・自他の良さを認め、みんなのために行動できる価値に気づき、将来の夢や希望に向かって諦めずに努力する態度を育てる。
- ・各教科、特別の教科道徳、総合的な学習の時間との関連を図るとともに、特別活動を中核として位置づけ、充実を図る。また、校内だけではなく、地域との連携、協働も推進する。

本校の授業改善に向けた視点

指導内容・指導方法の工夫	教育課程編成上の工夫	校内における研究や研修の工夫	評価活動の工夫	家庭や地域社会との連携の工夫	幼小保・小中一貫教育の視点
<ul style="list-style-type: none"> ・体験的・問題解決的な学習の重視。 ・算数における担任と学力向上支援講師との習熟度別指導（全学年）による授業のさらなる充実。 ・発展的な学習、補充的な学習の開発。 ・課題改善カリキュラムの活用による授業改善。 ・学力調査の結果を分析し、その分析結果を基に、今後の指導に生かしていくようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各教科での学習と関連付けた学校農園やビオトープ、地域の施設等の有効活用。 ・異学年交流の充実。 ・生活習慣や運動習慣の見直しと体育的な活動や体育授業の充実。 ・朝読書や読書旬間、PTA及び教員による読み聞かせなど、読書活動の推進。 	<ul style="list-style-type: none"> ・校内研究では、「学習環境を学習者の視点から捉え直し、学力向上に寄与するカリキュラムの創造」を研究テーマに、年間講師の指導を受けながらの指導法の工夫。 ・若手教員研修プログラムを作成し、教務主任、研究主任、OJT担当主任を中心にした研修を実施。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の自己評価（ポートフォリオなどの導入）や相互評価を積極的に取り入れ、児童の学習意欲の向上および授業改善に活用。 ・学校公開の保護者の感想や学校評議委員会の意見などの外部評価を授業改善に活用。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年9回の学校公開を実施。 ・道徳授業地区公開講座の実施。 ・地域の人材を外部講師として活用。 	<ul style="list-style-type: none"> ・同地区の小学校、中学校と連携を図り、授業参観・研究会参加を計画、実施。 ・中学校の英語科教員による英語の授業を6年生に実施。 ・地区中学校への入学予定者の学習面、生活面のヒアリングの実施。 ・地区中学校吹奏楽部による公演の実施。 ・地域の幼稚園、保育園と連携を図り、1・2年生と共に授業を実施。